

2013年度 常設展 第3期

棟方志功と西洋民衆版画

2013年9月25日(水)～12月23日(月・祝)



世界の“ムナカタ”と呼ばれ、日本を代表する版画家として有名な棟方志功(1903～75年)。その多くが無名の職人たちの手によって作られ、人々の生活に根ざした西洋民衆版画。この組み合わせはなぜ、と疑問を持たれる方は多いかもしれません。実は、両者には接点があるのです。

青森県に生まれた棟方は、ゴッホに憧れ芸術家を志し、1924年に上京。その後、柳宗悦^{やなぎむねよし}、河井寛次郎^{かわいかんじろう}といった民芸運動^{みんげい}の指導者たちと出会い、高く評価されました。「民芸」とは無名の職人の手で作られた日常雑器のことです。西洋の初期木版画も、生活に根ざした絵^えである「民画^{みんが}」と考えられていました。上手い、下手にとらわれず、人々の求めに応じて作られた日常雑器が持つ、素朴で自然な美しさ。それでいて力強く、見てすぐそれとわかる特色。まさに棟方の作品から感じられる魅力そのものです。

その後、棟方は、サンパウロ・ビエンナーレ(1954年)や、ヴェネツィア・ビエンナーレ(1956年)で最高賞を受賞し、世界の“ムナカタ”としての地位を確固たるものにします。一方で、その知名度が広がり、彼の作品本来の魅力が覆い隠されてしまったようにさえ感じられます。本展で今一度「有名」、「無名」ととらわれない、どこか本質的なところでつながる、二つの版画の世界をご体感いただければ幸いです。



「板画^{はんが}」について

棟方は、版木の板が持つ性質を活かし、木の魂を彫り出そうとする気持ちから、自作の木版を「板画」と呼び習わしました。版木のサイズによって制限された動きや姿が、逆に力強さを生み出している『二菩薩^{にぼさつしゃ}釈迦^{しやくが}十大弟子^{じゅうだい}』(1～12.)が、その好例です。

「柵^{さく}」について

棟方によると、「柵」とは四国の巡礼者が寺々に納めるお札のことも意味しているようです。お寺で願いをこめてお札を納めるように、一柵ずつ作品に祈りをこめて、ひたすらに彫っていく棟方の姿勢が、この文字に要約されています。

1～12.

棟方志功

『二菩薩釈迦十大弟子』

菩薩2点 1948年(改刻)、ほか、1939年

木版

1.

もんじゅぼさつ
「文殊菩薩の柵」 932×295 mm

2.

かせんねん
「迦旋延の柵」 921×283 mm

3.

ふるな
「富樓那の柵」 924×300 mm

4.

あなりつ
「阿那律の柵」 906×300 mm

5.

あなんだ
「阿難陀の柵」 910×307 mm

6.

らごら
「羅睺羅の柵」 930×280 mm

7.

うぼり
「優婆離の柵」 925×289 mm

8.

しやりほつ
「舍利弗の柵」 920×305 mm

9.

まかかしょう
「摩訶迦葉の柵」 910×310 mm

10.

すぼだい
「須菩提の柵」 930×300 mm

11.

もくけんれん
「目犍連の柵」 920×295 mm

12.

ふげんぼさつ
「普賢菩薩の柵」 936×300 mm

13.

棟方志功

かざしほんがびょうぶ
「挿頭花板画屏風」

1948年

木版・手彩色(裏面)

1490×1550 mm(二曲一隻屏風)

14.

棟方志功

かげろいしょうより「かげろい
『炫火頌』より「炫火の柵」

やすだよじゅうろう
歌・保田與重郎

1952年

木版

270×400mm

15.

棟方志功

さんかいしょうより「むねかたようがん
『山懷頌』より「胸肩妖顔の柵(A)」

歌・小林正一

1959年

木版

201×202 mm

16.

棟方志功

さんかいしょうより「しんがん
『山懷頌』より「心眼の柵」

1967年

木版・手彩色(裏面)

407×225 mm

17.

棟方志功

マンハッタンにならぶによしたちのず
「真奈波門多牟仁奈羅部女者達々図」

1964年

彩色・墨

約1060×1380 mm

寄託作品

西洋初期木版画について

本の内容をわかりやすく図で示し、ページを飾る挿絵(18~20.)や、一枚刷りの木版画には実用的な役割もありました。21.のような版画は聖書やお祈りの本に貼りつけられた跡が残っており、22.は新年の贈り物であったと考えられています。

18.

イソップ『寓話集』1葉

ストラスブール: ハイブリヒ・クノープロホツァー

1481年頃 木版 253×183mm

19.

ヨハネス・デ・カプア『人間生活の手引』3葉

ストラスブール: ヨハン・プリュース

1489年頃 木版 約272×183mm

20.

『ケルン年代記』1葉

ケルン: ヨハン・ケールホフ(子)

1499年8月23日 木版・手彩色 約294×207mm

21.

作者不明(推定制作地: ネーデルラント)

「鳥と花の縁飾りのあるキリストの洗礼」

1500-10年頃 木版・手彩色 115×81mm

22.

CKの画家

「祝福する幼児キリスト」

1564年 木版・手彩色 169×124mm

西洋民衆版画について

キリスト教にかんする図柄(23~30.)だけでなく、当時の英雄や指導者(31~36.)が好まれたようです。今も昔も、有名人を身近なものにしたい思いは、変わらないのかもしれない。

23.

「十字架のキリストと受難具」

1805-28年 木版・手彩色 355×258mm

版元: シャルトル、ガルニエ=アラブル

24.

「十字架のキリストと聖ヨハネと聖母と受難具」

1815-23年 木版・手彩色 350×255mm

版元: シャルトル、ガルニエ=アラブル

25.

「聖母被昇天」

1773-1828年 木版・手彩色 363×266mm

版刻: トマ・ブラン、版元不明

26.

「七つの悲しみの聖母」

1772-1828年 木版・手彩色 455×345mm

版刻: ギョーム・アラブル/トマ・ブラン?

版元不明

27.

「フランス女王エリザベト、我らのために祈りたまう」

1805-28年 木版・手彩色 316×259mm

版元: シャルトル、ガルニエ=アラブル

28.

「十字架のキリストと十二使徒」

1837年以前 木版・手彩色 413×323mm

版元: ル・マン、ピエール・ルル

29.

「十字架の道行き」

1824年 木版・手彩色 573×381mm

版刻: ジョルジャン 版元: エピナール、ペルラン

30.

「新しいエルサレム」

1824年 木版・手彩色 326×452mm

版刻：ジョルジャン 版元：エピナール、ペルラン

31.

「パリ士官学校前で国民軍を閲兵するアルトワ伯爵」

1815年 木版・手彩色 278×192mm

版元：ナント、ロワネ&デュームティエ

32.

「セント・ヘレナ島のナポレオン」

1837年以前 木版・手彩色 549×346mm

版刻：ジョルジャン、版元：エピナール、ペルラン

33.

「ロシア皇帝ニコライ一世」

1829-30年頃 木版 497×387mm

版刻：J.-B.ティエボ、版元：ナンシー、デフォイエ

34.

「ブラジル皇帝ドン・ペドロ」

1829-30年頃 木版 503×410mm

版刻：J.-B.ティエボ、版元：ナンシー、デフォイエ

35.

「アルジェリア太守フセイン」

1829-30年頃 木版 505×406mm

版刻：J.-B.ティエボ、版元：ナンシー、デフォイエ

36.

「イギリス王ジョージ四世」

1829-30年頃 木版 507×425mm

版刻：J.-B.ティエボ、版元：ナンシー、デフォイエ

37.

「人生の階段」

原作の制作年代：1826年 手彩色 357×530mm

原作の版刻：ジョルジャン

版元：エピナール、ペルラン

※現代の複製

畦地梅太郎(1902-99)コーナー

1. 「南アルプス」(別名・甲州の山)
1950年 木版多色 455×655mm

2. 「ふりかえる男」
1957年 木版多色 611×432mm

3. 『日産カレンダー』より「みこし」
1957年 木版多色 268×264mm

4. 「鳥のすむ森」
1975年 木版多色 389×288mm

浮世絵王手箱

つきおかよしとし 月岡芳年 天保10(1839)-明治25(1892)年
『月百姿』より

※いずれの作品も技法は木版多色
大判(約390×230mm)

1. 「じょうがほんげつ嫦娥奔月」 明治18(1885)年

2. 「ごどう悟道の月」 明治21(1888)年

3. 「いてしほの月」 明治25(1892)年

町田市立国際版画美術館

2013年9月25日発行

〒194-0013 東京都町田市原町田 4-28-1

<http://hanga-museum.jp/>

版画でひろがるアートの町田

公式ブログ〈芹ヶ谷だより〉更新中!

http://blog.livedoor.jp/hanga_museum/